

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 東京都多摩市立多摩第二小学校  
(※正式名称を記載)

種別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校     中高一貫<sup>※注2</sup>     高等学校  
 教員養成大学     専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒192-0375  
東京都多摩市和田 75

E-mail daihyo-tama2-sho@city.tama.ed.jp

Website http://schit.net/tama/estamadaini/

幼児児童生徒数 男子 312 名 女子 270 名 合計 582 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容 (1) 活動の概要

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「地域連携と問題解決学習の実践」を活動テーマとして、ESD の合言葉を「みんな にこにこ 二小の仲間 ずうっと にこにこ この地域」、とおき、「かかわり」を大切に、ESD の実践を通して「つながりを尊重し、多面的・総合的に考えることで問題を解決する力」の育成を目標とした。

特に生活とのかかわり（得られた知の活用）では、既習の体験と新しい学びを関連付けて問題を解決する授業の実践を理科や生活科・総合的な学習の時間において行っている。

①他の地域に係わる活動、②地域の自然に係わる教育、③エネルギーに係わる学習、等を行った。

### ① 他の地域に係わる活動

3 年生では社会科や総合的な活動の時間で身近な地域について調べ、まとめ・発信として宮城県気仙沼市の小学校との交流を目的に準備を進めた。また、6 年生は「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」の作品展示をきっかけに、自分たちの生活をアジアの子どもたちに知ってもらうことを目的に、年間を通して絵日記制作に取り組み、「優秀団体賞」を受賞した。

② 地域の自然環境に係わる教育

学校の横を流れる大栗川で、3年生が理科と関連させて総合的な時間で「身の回りの生き物」調べをした。どんな生き物が生息しているのか調べる活動を行い、地域の自然のよさについて考えた。その際に、市民団体である「水辺の楽校」の方々に、川の生態系や人と川とが共存することの大切さについてお話を伺った。

③ エネルギーに係わる学習

6年生はこれまでの環境の学習を踏まえて、平和やエネルギーの学習に取り組んだ。その中で、戦争や環境問題を解決するために理科の学習と関連させながら資源・エネルギーの視点で調べたり、考えたりした。また仲間との話し合いを通して意見をまとめ、多摩市エコフェスに参加し、自分たちの取り組みを広く市民の皆様に伝えようとする児童もいた。



②の写真（大栗川での活動）

③の写真  
（市民と直接かかわる児童）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

教科書等 地球教室（毎日新聞）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDカレンダーを作成し、総合的な学習の時間を中心に、理科、社会科と関連させ、問題解決学習を行った。特に今年度は理科研究との関連を重視し、理科教育との関連の中で指導方法の工夫改善を行い、地域資源の活用について研究に取り組み、成果を全国小学校理科教育研究協議会にて発表した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

全国小学校理科教育研究協議会研究発表会に向けて、校内研究において理科研究を通してESDの資質能力分析、SDGs達成のための実践的授業研究を行い全国に発信した。その際、カリキュラムデザインを目的にESDカレンダー手法を活用した「知の活用図」を開発し、そのゴールのイメージとしてSDGsを取り入れた。公務分掌にESD推進担当を置き、研修等を行い、合わせて全国大会、ESD推進校の研究授業・学校公開に担当者が参加し、成果を校内に発信した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

理科研究の内部評価のなかで、ESDやSDGsに取り組むことでSDGsが学校教育のカリキュラムデザインの中でゴールのイメージとして適切であることが分かった。一方でESDのわかりにくさや、校内でのESDを通して育てたい子どもの姿を明確にすることが課題として残った。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

全国小学校理科教育研究協議会発表会にて、理科教育におけるESDの取り組みが有効であることを明らかにした。特にSDGsが学校教育の中で目標として有効であることが明らかにした。また6年生有志が「多摩環境エコフェス」に参加し、自分たちの取り組みを広く市民に発信し、相互に学びを深めたり、発信したいという思いに火をつけたりすることができた。その思いを6年生が3～5年生、保護者・市民に伝える「6年生総合的な学習の時間発表会」として実施し、新たな活動を展開することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

6学年が「三菱アジア子ども絵日記フェス」に出品し「優秀団体賞」を受賞した。また6学年が理科、総合的な学習の時間の「エネルギー学習」で地域のボランティア団体である「おもちゃドクタKebo」やバイオガス出前授業の会のご協力をいただいた。担当者がESD学会中国地区大会において当校の実践事例を発表した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）  
※チェック事項 2-4 に対応

市内ユネスコスクールのESD担当教員との研修による情報交換を行った。また全国大会やESD推進校研究発表会に参加し、担当者が本校の研究成果を発表することで、相互理解や情報交換を行った。宮城県気仙沼市の小学校と教員間交流を深め、今後児童間の交流を計画している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

OJTの中で、ESDカレンダー作りに取り組み、カリキュラムデザインの方法について校内で学んだ。また、理科研究と関連してSDGsについて理解を深めたり、地域資源の開発に取り組んだりする中で、新たな地域人材との出会いや、地域の自然環境への深い理解を得ることができた。ESDによる学びを積み重ねた6年生が下学年に対して自分たいの学びを発信する場を求め、地域に出向いたり、「総合的な学習の時間発表会」を行ったりして発信する良さを感じることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も、理科研究と関連させ、総合的な学習の時間を中心に「かわり」の中で「地域連携」と「問題解決」学習に取り組んでいく。特に今年度はオリンピック・パラリンピック教育と関連させ環境・国際理解分野を中心に取り組みを進めていく予定である。